

一般社団法人江津青年会議所

## 自分が源

## 所信

一般社団法人江津青年会議所

2026年度 理事長 田中 健一郎

今、私たちを取り巻く社会は多様性の時代を迎えています。人工知能や SNS の発展により表現の幅は広がり、少数派や地方からでも自由に発信できるようになりました。多様な価値観が交わることで新たな発想と変化が生まれます。しかしその一方で、情報と意見があふれる中、私たちは何を信じ、どこへ進むのかという“軸”を見失いがちです。似通った価値観だけでは盲目的となり、集合知は発揮されません。異なる背景を持つ人々が互いを尊重し協働することでこそ、真の成長と発展が生まれます。

一方で、私たちのまち江津市の現実は一層厳しく、人口減少は加速しています。2025年には21,000人を下回り、2060年には14,000人を割り込むといわれています。このような時代を生き抜くために、多様な価値観を力に変え、変わり続けることが地域と組織の発展に不可欠です。江津市は挑戦する人を温かく支える風土を持つまちです。その精神を受け継ぎながら、私たちは地域に新しい価値を創造し、変革の火を灯さねばなりません。青年会議所の使命は、まさにその起点となることです。行政でも企業でもない私たちだからこそ、自由な発想と行動で地域の未来を切り拓くことができるのです。

江津青年会議所もまた、時代の変化とともに歩みを重ねてきました。かつては経営者を中心だった組織も、今では多様な立場の人々が集う場へと発展しています。それは先輩諸兄姉が挑戦と変化を恐れず築いてきた尊い財産です。しかし、自由と多様性の広がりの中で、かつてあった“秩序”や“自律”が薄れつつあるのも事実です。多様性とは単に“違いがあること”でなく、“違いを活かすこと”。その本質を見失えば、他人事の意識が常態化し、組織の力は発揮されません。私たちは今、課題を他人の責任とせず、自ら行動に変える意識を取り戻すときにあります。一人ひとりが自分が源という自覚を持ち、小さな一歩を積み重ねることで、組織は再び力強く動き出すのです。

人は誰しも、自分を認めてほしいという想いを抱きます。それは自然な欲求であり、成長の原動力でもあります。しかしその気持ちが一方通行になれば、他者への理解は浅くなり、自らを律する力も弱まります。だからこそ私たちは、人との“相互の働きかけ”の中で、自らの役割と責任を見つめ直さねばなりません。受け取るだけでも与えるだけでもなく、“自分の影響で何が変えられるのか”を問い続ける。この姿勢が自責の循環を生み、成長の土壌となります。青年会議所の価値は、この“相互の働きかけによる自責の循環”にあります。地域や仲間のために動く中で自らも成長していく。この循環こそが組織を力

強く前へ進めます。だからこそ、私たちはこの言葉を胸に刻む。

-自分が源-

誰かに動かされるのではなく、自らが行動の起点となる。他人に求めるのではなく、自分の中に答えを見出す。すべての変化は自分から始まるのです。課題を前に立ち止まらず、自ら考え、動き、挑戦する。意見や指摘を素直に受け止め、成長の糧に変える。その姿勢こそが“自律の力”であり、“自分が源”という言葉の真意です。異なる価値観を尊重しながらも、自分の軸を保ち、責任をもって行動する。その積み重ねが、江津青年会議所を強くし、地域に変化をもたらす源となるのです。

### 【会員育成】

青年会議所の存在意義は、青年に発展と成長の機会を提供し、地域に変化の兆しを生み出すことにあります。しかし今の私たちを見ると、理念を理解し、その意義に基づいて行動する会員は決して多いとは言えません。行動が変わらなければ、組織も地域も変わりません。まず向き合うべきは、“なぜこの組織にいるのか”という根本の問いです。行動の質は、理念への理解の深さと、互いを理解しようとする姿勢によって変わります。私自身を含め、他者の想いや背景を丁寧に受け止める対話、率直なコミュニケーションは十分とは言えません。だからこそ本年度は、正副理事長会が理念に関する例会を開催し、青年会議所の使命を共有していきます。

また、一人ひとりを深く理解するために、事務局が担う“育成カルテ”を活用し、会員の想い・経験・課題を丁寧に見つめながら、成長に寄り添う環境を整えます。理解が深まれば、挑戦に伴う不安にも寄り添うことができ、強い個を育み、多様性を活かす組織づくりの基盤となります。

コミュニケーションの量と質を高めるうえでは、祭委員会による事業参加推進が重要です。事業に参加し、一緒に準備し、同じ時間を共有することこそ、互いの理解と信頼を育む最も確かな方法です。さらに例会後には懇親会を設け、会の将来や各自の未来について語り合う時間を意図的に用意します。事業・例会・懇親会という三つの時間が、“互いを知り、理念を深め、未来を描く機会”として循環していくことを願っています。

青年会議所の価値は、誰かのために動いたことが自分の成長として返ってくるにあります。挑戦し、失敗し、振り返り、仲間のフィードバックを受け取る。その積み重ねが自問自答の質を高め、行動に芯を与えていきます。理念を理解し、対話し、行動する。この循環の中で責任感・情熱・実行力・謙虚さといった“強い個”の資質は磨かれ、多様な価値観が響き合う組織へと成長していきます。完璧でなくていい。一步が小さくても構いません。大切なのは、自分の影響力を過小評価せず、一人ひとりが“自分が源”という意識をもって行動を選ぶことです。理念を軸に、対話を重ね、行動し続け、未知の自分に挑み続ける。その姿勢こそが、江津青年会議所の未来を形づくり、このまちに確かな変化をもたらします。

## 【会員拡大】

江津青年会議所の会員数は、過去には90名を超える規模でしたが、現在は30名を下回る状況です。組織の多様性を支える基盤が徐々に失われつつある今、会員拡大の重要性は言うまでもありません。しかし現状を見ると、その歩みは一部の担当者に依存し、組織全体として挑戦の循環が生まれているとは言い難い状況です。

この停滞の背景にあるのは、単なる他人任せではなく、“伝えたい”という実感や、“動けば何かが変わる”という確かな手応えを得られていないことです。会員拡大は、人数を増やす作業ではなく、他者に向き合い、自らの言葉で想いを伝えるという、本質的なリーダーの行動そのものです。

私自身も、最初から主体的に取り組んでいたわけではありません。しかし、先輩に面談の場へ連れて行っていただいた経験が、自分の殻を破るきっかけとなりました。誰かの挑戦に触れ、その背中に学び、少しずつ自分も動けるようになった。こうした経験は、組織の中心を担う立場になったときに必ず活きます。会員拡大には不安が伴います。しかし、その不安を受け止めながら踏み出す一歩こそが、人に影響を与えられる“強い個”を育てます。行動の先にしか成長はありません。

だからこそ本年度は、会員拡大を“未来への投資”と位置づけます。拡大目標の達成を目指すと同時に、将来の拡大リーダーが育つ機会を意図的に作り、挑戦しやすい雰囲気を整えたいと考えています。先輩の背中に触れ、挑戦の現場に立ち会い、小さな成功体験を積み重ねる。そうした経験が次の世代の行動の起点となります。会員拡大は“人を増やす活動”ではなく、“未来のリーダーの成長を生む営み”です。その一歩が小さくても、必ず誰かの挑戦につながり、やがて組織に前向きな循環を生み出します。このミッションを、未来創生委員会に託します。

## 【江の川祭・前夜祭】

江の川祭は、市民がまちを誇りに思う大切な機会であり、世代を越えて受け継がれてきた地域文化そのものです。江津青年会議所は長きにわたりこの祭に関わり、まちに賑わいと活力をもたらしてきました。しかし人口減少が進む今、従来と同じ規模や手法を維持するだけでは、時代に合った価値を生み出し続けることはできません。これからの祭には、“かつての形を守る”ではなく、“この時代にふさわしい地域文化”として再構築することが求められています。

現在のパレットごうつでの開催は長く続き、一定の安定を生み出してきましたが、その分、発想や表現が固定化しやすい側面もあります。今年度は、祭の在り方を見直し、これまでになかった発想や多様な表現を取り入れていくことが問われる節目の年だと考えています。多様性が組織に新たな価値を生むように、祭においても、多様な個性が活きる舞台をつくるのが、これからの江津に求められる姿です。

地域内外の人々が得意分野や個性を持ち寄り、関わり方が自然と広がる祭へ。関わる幅

が広がれば、挑戦の機会も増え、まち全体の活力にもつながります。江津青年会議所は地域の皆さまへの感謝を胸に、伝統に敬意を払いながら、多様な個性と創造性を重ね合わせ、次の時代にふさわしい江の川祭の姿を模索してまいります。

そして会員には、この挑戦の中で自らの役割を見つめ、成長の機会をつかみ、地域の変革の起点となる力を育てほしい。このミッションを祭委員会に託します。この過程でこそ、“自分が源”という理念が自然と息づいていくはずです。

また、江の川祭前夜祭は、江津青年会議所の存在感を地域に示すために始まった事業であり、今年で4年目を迎えます。これまでの開催を通じて一定の認知と存在感が育まれてきましたが、その在り方が次第に固定化し、私たちが何者であり、どのような想いで地域と向き合っているのかが、十分に伝わっているとは言えません。

私たちが目指す前夜祭の姿は、地域に開かれた価値と表現が生まれる場であり、同時に、会員一人ひとりが挑戦と成長をつかむ舞台となることです。音楽、アート、食、文化、人の想いとといった多様な表現が交わり、新しい空気と出会いが生まれる中で、江津青年会議所としての想いと使命を、明るくわかりやすく地域へ届けていきたいと考えています。

そのために本年度は、前夜祭を“地域への発信”と“会員の挑戦・成長の場”という両面から見つめ直し、企画や関わり方を再編集してまいります。企画・運営はブロックスポーツ大会委員会に託します。大会運営で培う視点と、地域と向き合う経験を重ね合わせ、江津青年会議所の存在感をより鮮明に示す場へと発展させてください。変化のきっかけは、いつも一人ひとりの小さな行動から生まれます。“自分が源”という意識を胸に、前夜祭を通じて地域に新たな価値と出会いをもたらしてください。

### 【ブロックスポーツ大会】

ブロックスポーツ大会は、スポーツを通じてメンバー同士の絆を深め、県内各地の LOM を結び、人と地域をつなぐ大切な機会です。県内各地が輪番で開催し、江津での開催は実に9年ぶりとなります。長年にわたり、開会式・競技・表彰式という定型的な流れで運営されてきましたが、形式が確立するほど、新しい発想が生まれにくくなり、“大会そのものが目的化してしまう”という課題も見え始めています。今こそ私たちは、この枠組みを見つめ直し、スポーツを通して人と地域がより深くつながる大会へと進化させなければなりません。ブロック協議会が大切にしてきた伝統と意義を尊重しつつ、次の時代にふさわしい価値を重ねることが求められています。輪番制という特性を活かし、開催地が自らの魅力を発信できる仕組みをつくることも、新しい挑戦の一つです。

江津青年会議所には、その中心となって視点を束ね、大会を“地域が交わる場”へと昇華させる役割があります。スポーツは、人を自然と近づけ、言葉を越えた交流を生み出します。その力を活かし、県内の仲間とともに新しい大会の姿を描いてください。そしてこの大会は、地域に開かれた場であり、私たちにとっても“発展と成長の機会”です。自分が源という意識を胸に、一歩踏み出し、江津ならではの価値を県内へ届けてください。

## 【事務局】

事務局は、江津青年会議所の根幹を支える存在であり、組織運営の秩序と信頼を守る役割を担います。円滑な運営は偶然に成り立つものではなく、日々の細やかな準備と正確な記録、そして何よりも誠実な姿勢の積み重ねによって形づくられます。その一つひとつの行いが、理事長方針を支え、組織全体の信頼を築く土台となるのです。本年度の事務局には、専務理事の補佐を中心とし、理事会・総会・各会議の円滑な設営と情報伝達を通じて、組織の意思決定を正確かつ効果的に支えることを求めます。各委員会やメンバーの活動をつなぐ“要”として、事務局の一つの判断、一つの動作が組織全体の動きに影響を与えるという自覚を持ち、常に冷静さと品位をもって行動してください。

事務局は、静かにして確かな力で、組織の根を支える存在です。その誠実な行動の積み重ねが、やがて組織全体を動かし、地域の信頼を築いていく。一つひとつの小さな行いを丁寧を重ね、方針の実現に向けて確かな一歩を積み上げてください。

## 【最後に】

私は理事長として、まず自分自身が挑戦します。完璧でなくても、不器用でも構いません。自分が動く姿で、仲間に“できる”という希望を伝えたい。不安や迷いを抱えながらも、それでも前へ進む姿が、きっと誰かの背中を押す力になると信じています。一人ひとりが“自分が源”であるという自覚を持ち、互いを尊重し、挑戦を称え合う文化を育てていきましょう。その輪が広がる時、江津青年会議所は、真に多様性を活かす強い組織へと進化します。そしてその先に、明るく豊かな江津の未来が拓かれていくのです。

江津の未来は、私たちの手の中にあります。

2025年12月15日更新